

意見・要望等(要録)

2編 にぎわい「地域の宝が活かされ、にぎわいのあるまちになっています」**第1章 企業・産業が発展し、活力あふれ成長するまち**

- (1) オープンイノベーションなど、企業に挑戦を促すプログラムを用意していくべき。個々の企業向けの支援ではなく、プロジェクト型の創業に対する支援。創業により雇用を創出したり、イノベーションを起こすような企業を育成してほしい。
- (2) 現況と課題で、入国管理法や外国人労働者のことについて触れられているが、それに対応する視点がないのでバランスが取れていない。今後検討していくなど、視点に記載しておくべきではないだろうか。
- (3) 企業誘致はやみくもに誘致してもうまくいくことはない。他都市を参考に、大牟田ならではの特色やウリを打ち出し、企業進出が連鎖するよう取り組まれない。
- (4) まちづくり人材というような言葉を使わないようにしてはどうだろうか。言われたことをやるだけではなく価値をつくっていくような作業（をしていく人）としてはどうかと思う。
- (5) 視点4について、人材確保を意識されたことは感じられるが、今までの延長線上で続けてもうまくいかない。人材確保は大きな課題。他の自治体とは余程違うことをやらないと、優秀な人材は残っていかないだろう。
- (6) 第1章の現状と課題の5点目の新規就職者の内2割しか大牟田に残らないことについて、政策推進の視点での的確な対策が見られない。
- (7) 第1章の現況と課題の7点目のコンテナ貨物の9割が輸入となっていることについて、積極的な対応が感じられない。
- (8) 第1章について、もっと従来の方法+地元企業を親御さんにPRする方法を検討する必要があると思う。

第2章 人とものが行き交い、にぎわうまち

- (1) 世界遺産など大牟田には観光資源がたくさんあるので、市も稼ぐ手段のひとつとしてインバウンドに力を入れて稼いでほしい。
- (2) 交流人口の増加は大牟田市における消費の拡大を意味している。消費の拡大のためには、観光消費の7割を占めると言われている宿泊・飲食の整備が必要。
- (3) 店頭で足を運ぶ人は今後減ると考えており、減っているからこそ販売形態が多様化していると考え。インターネット販売の方法がわからない高齢者へのサポート等があればいいなと思う。
- (4) 第2章の地域資源のブランド化について何をどんなブランド化を図ろうとい

うのかわからない。特産品や観光商品開発は、地域資源のブランド化にはならないのだろうか。観光基本計画の見直しは今回の一番の施策であるので、もっとアピールしないといけないと考える。

- (5) 大牟田市動物園が映画の舞台になったことや、約 23.6 万人来ていただいていることから、手を打っている政策を少しアピールして載せた方が良いと思う。
- (6) 第 2 章の現況と課題の 6 点目、多様化する商業社会について、視点を変えて深堀販売の考え方は良いが新しいシステムを活用した工夫が必要と思う。

第 3 章 豊かな自然を活かした魅力と競争力ある農業・漁業のまち

- (1) 現代は競争よりも共創の時代であり国も取り組んでいる農福連携に、全国でも高齢化率の高い大牟田市が率先して取り組むべきではないか。
- (2) 視点 1 に、担い手の育成・確保と経営力の強化 新規就農者が安心してとあるが、まったくもって支援と呼べるサポート体制ではないと感じる。
- (3) 第 3 章（視点 2）生産基盤整備の推進について、そもそも道が無く陽当たりなどの立地が悪い場所の整備をしたところで、担い手がない現代に農業者が増えるとは到底考えられない。また、全てにおいて、何割かの補助金を出すような対策しかなく、
- (4) 第 3 章の現況と課題の 3 点目、漁業環境の改善を図るとともに漁業施設整備等への支援について、もっと積極的なかわりが必要と感じました。
- (5) 海苔の養殖では、大量のはたき海苔（低品質海苔）が発生するため、その処分や利活用方法について、専門家を交えて検討されたい。
- (6) イノシシ対策として、個人が電気柵を設置する際の補助は効果的ではなく、根本は竹林が荒廃していることが原因と考えられるため、何かの対応が必要ではないか。
- (7) 有害鳥獣対策や農業者の所得向上について、新規就農者も一緒に取り組めるような新しい取り組みについても、視点等に入れていただきたいと思う。

4 編 暮らし「都市と自然が調和した快適なまちになっています」

第 1 章 魅力ある都市空間が形成されたまち

- (1) アンケートは設問内容によって回答を誘導できる要素もあるため、アンケート以外の評価も検討されたい。
- (2) 自然環境を守るべき場所は様々あると思うが、甘木山や三池山の登山道整備等を視点に入れてみてはどうか。
- (3) 甘木山や三池山は竹の葉が散っているため見た目が悪く、また放置竹林も多い。これらの解決をせず自然環境のことを語ることはできないのではないか。
- (4) 財政的問題や地権者との交渉などもあるかと思うが、狭あい道路を抱える地

域への抜本的対策は必要。土地区画整理でいう換地と減歩なども有効な手段であるので、検討されたい。

- (5) まちの賑わいづくりのためには新大牟田駅周辺の賑わいを創出していくことが必要。周辺地域の開発に向けて、市の柔軟な対応も検討されたい。
- (6) 第1章の都市のコンパクト化を図ることが必要と言いながら、面的な整備がなされていない地域の市街地計画を進めていくのは選択と集中の考えから難しいのではないか。
- (7) 第1章の視点4の更なるボランティア活動の推進について、もう少し具体的な内容をいれてはどうか。

第2章 交通ネットワークが整ったまち

- (1) 4編4章の下水道の部分にはストックマネジメント計画の記載があるので、2章にも橋梁長寿命化修繕計画について記載したほうがいいのではないかと。2章と4章の記載は、合わせたほうが良いと思う。
- (2) 自動運転を大牟田市でも取り入れてほしい。大牟田市において、テクノロジーの恩恵を受けるという視点が抜けていると感じる。
- (3) 視点3に行政、市民、交通事業者の役割分担によって公共交通網を維持・確保していくとあるが、計画案を読むだけでは、実際にそれが可能であるか疑問であり、果たして、役割分担により利便性は向上していくのだろうかと不安になる。記載に工夫が必要ではないか。
- (4) 優良農地がどのようなものか分かりやすいように用語説明があつたら良いのではないかと。
- (5) 市内の橋梁（477橋）について、5年に1回の点検が終わっているならば、視点の中でそのことも表現してもいいのではないかと。
- (6) 市内の公共交通は人口の81%をカバーしており、非常に高い利便性である。このことはもっとアピールして、本数が足りないなどの不満と運営に要するコストとのバランスをとるための表現を記載してもいいと思う。
- (7) 道路管理面に関し、安全パトロール（土木担当職員）・郵便局員・市役所職員で市内へ出る人などのネットワーク化を図ること検討してはどうか。アプリ等を活用し、損傷箇所の位置情報や写真などを共有するシステムをつくることも可能だと考える。

第3章 人にやさしい住まい・住環境が形成されたまち

- (1) 古い市営住宅には高齢者の一人暮らしが多い。団地内のコミュニティのことを考えると、高齢者をひとつの団地にまとめることはできないかと。
- (2) 視点2の空家対策に係る関連団体との連携について、もう少し具体的な状況を記載してはどうか。

- (3) 視点3の一人暮らしの高齢者の安否確認について、新しくコストのかからない方法もあるので検討してはどうか。

第4章 地球や自然を大切にすまち

- (1) 動物の入手経路と虐待などの因果関係について、原因の調査・考察を行ったうえで適正飼育や終生飼養を推進すると思う。
- (2) 大牟田は竹林や山など荒れているところが多く、登山道がなくなっているところもある。視点1に「エコ行動を実践しライフスタイルを変えていくための啓発をする」と記載されているので、行政としても何か対応を考えていただきたい。
- (3) 温暖化というよりは寒暖二極化が進んでいるように感じている。このような考え方を持つ人がいることを頭に入れておいてほしい。
- (4) 水は雨が降って海へと流れていくもの。本章には水や川の話も含まれているが、山や海という視点もあるといいかと思う。
- (5) 日本は昔から炭をつくるという手法で固定化を行ってきた。植物に炭酸ガスを吸収させ、それを炭にすることで半永久的に固定化でき、川や海に入れば浄化してくれる。例えば市が炭を買い取るなどの対応をすれば、それを契機に山を持っている人は竹を切って炭をつくるのではないか。炭酸ガスの固定化については市で検討してほしい。
- (6) 下水の普及について、現在個人での設備にて自然に対応できる設備もあるので、無理に普及を進めずに、柔軟な対応と施設設備のコストと利用者の数が望めない地区では割り切りも必要ではないかと思う。

第5章 資源が循環する環境にやさしいまち

- (1) 生ごみの堆肥化というのは腐敗させているだけであり、環境によくないと考える。竹堆肥を活用すれば生ごみの堆肥化も可能と考える。専門家の意見も聞いて、研究してほしい。
- (2) ごみ処理基本計画を策定予定ならば、少し記載してはどうか。ごみ処理施設の建設や埋立地の延命化の面からも、ごみ減量は課題と考えられる。

計画の実現に向けて

第1章 市民と行政がともにまちづくりを進めます

- (1) 校区まちづくり協議会については総括の上、今後のあり方について考える必要がある。
- (2) 視点の3、4の人材育成・発掘について、そのような人材を求めるのか理想像を明確に示してはどうか。福岡市の市民まちづくり研究員なども参考にされ

たい。

- (3) 校区まちづくり協議会は市民に運営をまかせる形であろうと考えるが、設立から自立という流れの中に「若返り」というテーマを入れておかないと、年長者がずっとやり続けなければならない。

第2章 地域の魅力を積極的に発信します

- (1) 現況と課題に動物園に関する記述が盛り込まれていない。全国メディアにも頻繁に取り上げられる施設であり、ここに記載すべきではないか。
- (2) 現況と課題にアウトプロモーションについて記されているが、もっとアウトプロモーションを強化してもらいたい。
- (3) 大牟田市はシティプロモーションが下手だと聞いている。新たなモノ・コトをつくったら、広報やホームページに掲載するだけで、それだけでは情報に市民に行き届いていないのではないか。
- (4) 新しいモノ・コトを広げるのであれば、市外、近いところでは福岡市に出向いてPRしていかなければならないのではないか。もっと企業やメディアを活用したシティプロモーションを推進していくべきではないのか。
- (5) 他市では小さなことでも市長が積極的に露出している。市民の代表である市長がもっとメディア露出すべき。
- (6) 対外的発信方法を他の都市から学ぶ必要があると思う。

第3章 健全で効果的・効率的な行財政運営を進めます

- (1) 人材育成及びそれに連動する人事評価に関する取り組みについて、具体的な成果をもとに、仕事に生き生きと取り組む職員をより多く育成する観点から進めてほしい。
- (2) 大牟田市全体として、新しいことへの挑戦が持続可能性につながると思う。人材育成として、新しいことへの挑戦が評価される仕組みが重要。
- (3) 市の職員の年齢構成が40～50代が80%とのことであるならば、これを好機と捉え、何をどう補うか方法を考えて進めなければ、残った人が苦勞するだけなので、AIやIoT等を活用してやっていくべき。
- (4) 生産性の向上は課題。AIやRPAの活用による業務効率化について、民間からアドバイスを受けるべきだと考える。
- (5) これから財政が厳しくなっていく中で、まち全体として収入源を増やし、稼ぐまちとして挑戦し続ける視点を、今後4年間組み込む必要がある。SIBは現在大牟田市で1事業取り組まれているので、そういった取り組みを積極的に行ってほしい。
- (6) 自主財源の確保にはふるさと納税が有効だが、本気でやっているように思えない。他都市の実績をみると、今の流れから完全に乗り遅れている状況。

第4章 行政サービスの利便性を高めます

- (1) 庁舎の建替えは、使い勝手はもちろん地震対応も考えておかないといけない。財政面もあり難しいとは思いますが、防災における活動拠点の整備を図ることも重要である。
- (2) 庁舎のバリアフリーの状況について、障害を持つ人には待ったなしの状況。短期的な対策をどう考えているか。インターホンやエレベーターの設置箇所、雨のときにも対応できるよう、北別館1階に専用駐車場があることを市民にわかりやすい周知をお願いしたい。
- (3) 窓口サービスの向上に向けた取組みやICTを活用した情報化の推進など、行政手続きの利便性を高めるのはいいこと。本計画の期間内にどこまで進めるといふ数値目標を持って進めてほしい。